

## キッズフェスタ 2025 に参加して

松江 優河

神奈川県総合リハビリテーションセンター リハビリテーション部 理学療法科

### 1. はじめに

2025 年 4 月 19 ～ 20 日に TRC 東京流通センターでキッズフェスタ 2025 が開催された。会場には車いすやバギー、ベッドなどの福祉用具のみではなく、ゲームやネイルペンなど児の遊びに関する展示も出展されていた。会場には医療従事者以外にも当事者やその家族も多く参加していた。当事者やその家族は実際に機器を体験し、出展社とコミュニケーションをとっている場面が多く、医療職のみではなく当事者・家族にとっても情報を得るための貴重な機会であると感じた。また、私自身も当事者の現状や困難感などを知る良い機会であり、今後小児のリハビリに関わる中で相談・紹介を行う上でとても貴重な時間であった。

### 2. 介護者の身体負担

障害児の介護負担は身体的負担、経済的負担、心理的負担など様々である。特に身体的負担は介助者に腰痛を引き起こすリスクがあり、実際に腰痛を抱える当事者家族も少なくない。腰痛の要因は介助方法が未収得なことやベッドやリフターなどの道具の導入や使用ができていないことなどが挙げられる。また、児の年齢が小さい時から介護をしている場合、児の成長後も身体負担の多い介護方法を実施している負担感から我々専門職に相談に来るケースも少なくない。そのため身体的負担を少なくするには介護のしやすい環境設定で負担の少ない介助方法を習得する必要がある。

### 3. 出展されていたベッド

今回出展されていたフランスベッドのマルチポジションベッドは寝ている状態から端座位の状態まで姿勢変換をすることができる。その操作は簡便で、ボタン 1 つで操作が可能となっている。従来の介護ベッドのように好みの背上げ角度に調節できることはもちろんのこと、端座位での高さも調節することができる。このベッドの使用により起き上がりの介護負担軽減や対象者の起立能力を引き出した移乗をすることができる。また、移乗の場面のみではなく、昇降式の机と組み合わせることで座位での作業を行うことも可能である。

実際に体験をすると、背上げによる不快感は少なく、脚上げとの組み合わせにより臀部のずれ落ちも少なかった。また、端座位になった際の恐怖感も少なかった。起き上がりや移乗に介助を要する場合や座位での作業を促したい対象者に有効であると感じた。

### 4. まとめ

当事者と専門職として関わっていく中で児のみではなく家族の介護負担を配慮した指導の必要性を再確認した。また、介助指導のみではなく道具の提案をしていくために今後もキッズフェスタに参加していきたいと感じた。



図 1 会場



図 2  
マルチポジションベッド

神奈川県総合リハビリテーションセンター  
リハビリテーション部 理学療法科  
〒243-0121 神奈川県厚木市七沢516